2024 年度事業計画書
（2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日）

■2024 年度事業計画
本事業年度における世界経済、国内経済は依然として先行きに不透明感はあるものの、国内では新型コロナウイルス感染症が落ち着きをみせ、季節性インフルエンザと同じ「5 類」へ移行した。 一方、ロシアのウクライナへの侵攻により世界経済の不透明感は脅威となりつつある。 さらには、パレスチナ、イスラエル紛争の激化、円安ドル高に推移した為替相場が進展したことによるインフレ懸念が現実となり、輸出入のアンバランスが国内経済に及ぼす影響も益々心配される。また、エネルギーの安定供給に向け、原子力発電所の稼働再開に向けた動きも各地で起きている。しかしながら、元旦に能登半島で大規模な地震が発生し大きな被害が出た、日本各地でも地震が頻発しており、台湾でも大規模な地震が発生し、ビルの倒壊など大きな被害が出た。このため、自然災害への対策も当連盟ならびに翻訳・通訳業界の持続可能な発展と健全化を進める上でＢＣＰ（事業継続計画）の策定と運用が重要となってきている。 さらに、翻訳・通訳業界もリモートワークによる働き方改革が推進されてきたが、新型コロナウイルスの 5 類への移行に伴い、対面活動の復活と組織運営の観点などから事業所への出社などの回帰が見られる。一方、顧客からの継続した品質・スピード・コストに対する要求基準の高まり、さらには翻訳精度の向上がみられる機械翻訳（AI 翻訳）の利活用の進展等により、引き続き翻訳・通訳業界を取り巻く環境は市場・作業環境面で一段と大きく変化しつつある。また、昨年 10 月から施行されたインボイス制度への会員の対応とその影響についての業界調査。 このような環境の中で、日本翻訳連盟は翻訳・通訳業界の中核的役割を果たす組織であることを自覚し、大きく変化しつつある市場・作業環境の中で持続可能な発展と健全化を推し進めていくために、これまでの伝統を継承しつつも新しいものを取り入れてゆく「不易流行」の考え方を基本に、関連諸団体との提携・協力関係を一段と深めながら以下の 5 項目を引き続き 2024 度の重点施策とする。

（１）JTF 翻訳祭を関東・関西圏以外での初の地方開催を金沢市で実施する。オンデマンドでは、会場開催セミナーの録画に加え、別途オンライン録画セミナーも配信する。翻訳・通訳の需要拡大とあわせ、「ことばを伝える」をテーマとし、翻訳業界関係者だけでなく、翻訳・通訳がかかわるあらゆる業界・場面を想定したさまざまな講演を予定。令和 6 年能登半島地震の復興も兼ね、関係者一同が一丸となって JTF 翻訳祭を盛り上げて行きたい。
また、年間 4、5 回程度セミナーを開催するなど、会員サービスの拡充と入会促進
（２）委員会体制の強化とリモートワークの推進、Ｗｅｂサイトの利活用による事務局業務の効率化
（３）ほんやく検定試験に関する組織強化と実施・運用方法に関する検討
（４）機械翻訳、翻訳・通訳支援ツールと新たに大規模言語モデル（LLM）に基づく生成 AI 等に関する調査・研究の推進
（５）国内外の関連団体との更なる提携・協力関係の一層の強化

■1. 翻訳事業に関する調査及び研究（定款第４条第１号関係）

①業界調査委員会

【内容】

第８回業界調査計画を策定し、業界調査を実施する。

調査実施にあたって、以下の点について委員会にて協議する。

① 売上増減情報等、継続調査項目の精査

② 業界へのインパクトの大きいと思われる情勢変化(トピック)の洗い出し。

③ 機械翻訳利用状況、コロナ禍影響、インボイス制度など過去に追加したトピック項目の継続調査要否の検討

【担当】

業界調査委員会

委員長：二宮俊一郎（JTF 理事）

委員：朱宮令奈（個人翻訳者）、中野真紀（JTF 理事）、原真理恵（JTF 理事）、筆谷信昭（日本映像翻訳アカデミー株式会社）、室田陽子（JTF 理事）、渡辺顕（株式会社サン・フレア）

②翻訳品質委員会

【内容】

A）公開資料の維持管理および活用

- 「JTF 翻訳品質評価ガイドライン」（以下「JTF ガイドライン」）を維持管理し、必要に応じて改訂する。また、「JTF ガイドライン」の試用と評価を翻訳会社などに要請する。
- 「JTF 日本語標準スタイルガイド」（以下「JTF スタイルガイド」）、「JTF Style Guide for Translators Working into Japanese」（以下「JTF 英語版スタイルガイド」）、および関連ツールを維持管理し、必要に応じて改訂する。特に、業界におけるスタイル指定の傾向に即す必要があるため、次項を検討する。
- 最近の各社スタイルガイドを入手し、最近の傾向（の変化）を把握する。
- 海外のクライアントや翻訳会社のスタイルガイド研究。海外企業は、日本語に特有のスタイルガイド指定を把握していないからか、日本語への翻訳に必要な項目を網羅していないことが多いように思う。そうした状況を把握して、海外企業向けに「JTF スタイルガイド」の普及を図りたい。

B）公開資料の告知と広報

- オンラインセミナーの形で、スタイルガイドおよびガイドラインの告知と浸透を図る。

C）ほんやく検定との連携

- ほんやく検定におけるガイドラインおよびスタイルガイドの活用について、ほんやく検定委員会と協議する。

【担当】

翻訳品質委員会

委員長：高橋聡（JTF 副会長）

■2. 翻訳事業に関する研修会及び講演会等の開催（定款第４条第２号関係）

①JTF セミナー委員会

【内容】

前年度、東京、関西のセミナー委員会を統合化し初めてのセミナー委員会となり、開催は 4 回実施した。今年度も企画内容、開催方法（オンラインを中心にハイブリッド開催も含めて）を検討していく。開催は年間４回ないし５回程度を、翻訳祭を挟んで開催する予定である。

【担当】

JTF セミナー委員会

委員長：村下義男（JTF 理事）

委員：安藤惣吉（JTF 常務理事）、木村仁美（アイ・ディー・エー株式会社）、冨田剛介（株式会社コングレ・グローバルコミュニケーションズ）、中野真紀（JTF 理事）、由良恭平（アイ・ディー・エー株式会社）

②翻訳祭実行委員会
【内容】
・名称：第 33 回 JTF 翻訳祭 2024
・テーマ：「ことばを伝える ― 情報、技術、文化、そして心を伝える」
・開催期間
［会場］2024 年 10 月 24（木）・25 日（金）（金沢市文化ホール）
（24 日交流パーティー：金沢ニューグランドホテル）
［オンデマンド］2024 年 11 月の 1 ヵ月間を予定
関東・関西圏以外での初の地方開催を行う。オンデマンドでは、会場開催セミナーの録画に加え、別途オンライン録画セミナーも配信する。翻訳・通訳の需要拡大とあわせ、生成 AI の台頭で、何をどう伝えるかがあらためて問われている今、「ことばを伝える」をテーマとし、翻訳業界関係者だけでなく、翻訳・通訳がかかわるあらゆる業界・場面を想定したさまざまな講演を予定している。令和 6 年能登半島地震の復興も兼ね、関係者一同が一丸となって翻訳祭を盛り上げたい。

【担当】
大会組織委員会
大会組織委員長　村下義男（JTF 理事）、大会組織副委員長　二宮俊一郎（JTF 理事）
委員　石川弘美（JTF 理事）、松元洋一（JTF 理事）、中野真紀（JTF 理事）
実行本部
実行委員長　中野真紀（JTF 理事）、実行副委員長　石川弘美（JTF 理事）、
広報委員長　前田耕二（株式会社川村インターナショナル）
プログラム委員長　高橋聡（JTF 副会長）、プログラム副委員長　塩﨑理恵（株式会社アビリティ・インタービジネス・ソリューションズ）
渉外　木村仁美（アイ・ディー・エー株式会社）、平野幸治（株式会社メディア総合研究所）
財務　敦巻千里（株式会社翻訳センター）
実行委員会
広報委員　佐々木春香（株式会社アスカコーポレーション）、松本佳月（個人翻訳者）、マハウォン ウィリヤ スタシニー（株式会社アミット）
広報サポート　石川弘美（JTF 理事）
プログラム委員　安間幸成（ヤマハ株式会社）、石井周太（株式会社ウィズウィグ）、酒井秀介（翻訳者コミュニティ「カセツウ」）、西墻慎一（個人翻訳者）、舟津由美子（個人翻訳者）、前田耕二（株式会社川村インターナショナル）、松浦悦子（個人翻訳者）、茂木澄花（個人翻訳者）、由良恭平（アイ・ディー・エー株式会社）

■3. 翻訳事業に関する人材育成及び資格能力審査の実施（定款第 4 条第 3 号関係）
①「JTF ほんやく検定」の実施
【内容】
本年度もほんやく検定を 2 回実施する。今年度の受験者数の目標は、530 名（延べ人数）とする。
基礎レベル 4 級および 5 級の試験実施については、第 81 回以降は当面休止をすることとし、JTF ほんやく検定での基礎レベル試験（4 級および 5 級）の実施方法や目的などを十分検討することにする。
本年度も特許分野を NIPTA 様と共同運営し、JTF 会員は NIPTA 様のすべての試験を 20%引きで受験できるサービスを継続する。
また、ほんやく検定の最適な PR 活動をさらに積極的に行う。SNS 媒体を活用した広報展開を行い、新規受験者数の増加を図る。さらに、本年度も JTF 法人会員が運営する翻訳学校の現役受講生に対する JTF 会員受験料適用を実施し、翻訳学習者もほんやく検定を受験しやすくし、受験数増加を図

る。
若手翻訳者や独立を目指している合格者の為に、翻訳会社との交流を深める機会を提供する。
【日程】
第 81 回：2024 年 7 月 27 日（土）、第 82 回：2025 年 1 月 25 日（土）
科目：（実用レベル）英日翻訳／日英翻訳
実用レベル分野：（1）政経・社会（2）科学技術（3）情報処理（4）医学・薬学（5）金融・証券（6）特許（特許については NIPTA 様と共同運営を継続する）
受験方法：インターネット受験

②「JTF ほんやく検定」問題・解説集の刊行（基礎レベルに関して刊行しない）
【内容】
過去問題・解説集の刊行
DM、ホームページ、雑誌等による広報活動を積極的に行い、新規申込者数の増加を図る。本年度も従来どおり、各回の「問題・解説集」を編集・刊行する。
第 80 回：2024 年 6 月下旬刊行、 第 81 回：2024 年 12 月下旬刊行

【担当】ほんやく検定委員会
委員長：安藤惣吉（JTF 常務理事）
委員：高橋聡（JTF 副会長）、マイアットかおり（JTF 理事）
オブザーバー：室田陽子（JTF 理事）

■4. 翻訳事業に関する情報の収集及び提供（定款第 4 条第 4 号関係） ①組織委員会
①業界向上委員会
【内容】
理事会の承認を得て、今期よりトラブル防止委員会から、「業界向上委員会」の名称に変更となった。業界向上委員会は、業界の地位向上に寄与するため、健全な発展を目指す。そのために他の委員会と連携を図りながら、今期は業界における規定や行動規範などの構築と定着を進めていく。
あわせて業界向上委員会は従来通り、業界内でのトラブル予防のための情報発信と業界内の窓口として組織委員会（三役）とも連携しながら進めていく。

【担当】業界向上委員会
委員長：松元洋一（JTF 理事）

②組織強化委員会
○組織強化の推進
【内容】
・引き続き事務局員のリモートワークの継続とＷｅｂサイト、業務システムなどの利活用により事務局業務の効率化、軽減化を図るとともに、会員向けのサービスを一層強化する。
・AAMT（アジア太平洋機械翻訳協会）等と連携し、機械翻訳（AI 翻訳）、生成 AI 等の調査、研究、利活用状況などの会員への速やかな情報提供を引き続き実施する。

【担当】
組織委員会
委員長：安達久博（JTF 会長）
委員：高橋聡（JTF 副会長）、森口功造（JTF 専務理事）、安藤惣吉（JTF 常務理事）、石岡映子（JTF 常務理事）

○翻訳・通訳事業の ISO 規格化に向けた取り組み
【内容】
翻訳部会では、あらたに改定対象となった ISO 18587（ポストエディット）の規格策定に関与する。

本規格は、自己適合宣言を含めて国内での利用が普及し始めていることもあり、翻訳業界に与える影響は大きい。そのため、見直しには積極的に関与する必要がある。 通訳部会では、大きな案件は昨年度までに完了したが、現在 5 年ごとの ISO の見直しの期限が順次きている。その中でも 5 年前に発行した同時通訳関連の機材、ブース等の規格見直しや新規の ISO を検討する動きも出ている。関連する ISO については、引き続きフォローしてゆく。翻訳・通訳ともに、昨年同様対面での国際総会が開催される見込みであるが、対象規格の影響度、およびロビー活動の重要性を考慮し、JTF として国際総会へ参加する。本事業年度も、TC37 SC5 の総会は、ベルギーのブリュッセルにある、European Parliament にて 6 月に実施予定である。

【担当】
組織委員会部会 ISO 規格検討会
部会長：村下義男（JTF 理事）
部会委員：田嶌奈々（株式会社翻訳センター）、森口功造（株式会社川村インターナショナル）、山田優（立教大学）

<u>○通訳事業に関する講演会等の開催及び調査研究</u>
【内容】
全体回数のうち、1 回は通訳者によるセミナーを企画し、実施していく予定である。これまで同様、現役通訳者として活躍されている方々に登壇いただき、ユニークな経験や仕事での基本的な心構え等をセミナー参加者に伝えてもらえるよう、有益な企画を実施していく。

【担当】
組織委員会部会 通訳部会
部会長：村下義男（JTF 理事）

③広報委員会
【内容】
<u>○JTF ウェブサイトの更新・運営</u>
速やかな更新をおこなえるよう体制づくりを強化する。引き続きた、引き続き動画配信サービスの流れを構築し、セミナーやその他の動画販売についても検討する。

<u>○JTF Web ジャーナルの編集発行</u>
松元編集長を中心に、特集記事に関する会議を密に行い、今後も企画運営していく。さらに海外の理事を新たに委員に迎え、海外情報のイ ベントレポートや、海外の翻訳団体などと連携して海外の情報の発信を増やすための取り組みを行う。また、翻訳者に有益な情報の提供を提供することも目指す。

<u>○JTF 翻訳祭での広報活動</u>
遠隔地での開催となるため、参加者・スポンサーに有意義なイベントとなるよう、クライアントや、いままでとは頃なる層に対しての発信を強化する。

○その他
翻訳の日のイベントや、関係団体と連携した取り組みを強化していく。

【担当】広報委員会
委員長：石川弘美（JTF 理事）
委員：高須千代（編集）、手島千左子（ライター）、前田耕二（株式会社川村インターナショナル）、松元洋一（JTF 理事、JTF ジャーナル web 版編集長）
アドバイザー：松本佳月（翻訳者）

<u>■5.翻訳事業に関する内外関連機関との連絡及び協調（定款第 4 条第 5 号関係）</u>

【内容】
内外との経済活動の活性化が見込めるため、ISO 関連を含め、内外の関係機関との対面での連絡及び協調を積極的に進め行く。特に、JAT（翻訳者協会）、JACI（会議通訳者会議）、AAMT（アジア太平洋機械翻訳協会）の 3 団体様との連携強化を今後も推進して行く。

【担当】
組織委員会
委員長：安達久博（JTF 会長）
委員：高橋聡（JTF 副会長）、森口功造（JTF 専務理事）、安藤惣吉（JTF 常務理事）、石岡映子（JTF 常務理事）

■6.情報セキュリティに関する取組（定款第 4 条第 9 号関係）
【内容】
事務局員の安全確保と負荷の軽減の観点から、リモートワークの継続と対面活動とのバランスについて取り組む。

【担当】
組織委員会
委員長：安達久博（JTF 会長）
委員：各委員会委員長、JTF 事務局